

6年生『全国学力・学習状況調査』の結果について

4月19日(火)に実施しました全国学力・学習状況調査の結果が返ってきました。全国学力・学習状況調査は、毎年、各教育委員会や各学校が児童生徒の学力や学習状況を把握し、学習指導や生活指導の改善等に役立てることを目的として実施されています。

本校でも本調査結果を分析し、まとめました。本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことなどを踏まえつつ、保護者・地域の皆様の理解と協力のもとに適切に連携を図りながら一層の指導上の工夫改善に努めます。学校の教育活動に対して支援していただければありがたいと思います。また、それぞれの結果については、本日、封筒に入れて返却しています。お子様と一緒にご確認ください。

〈算数〉

○成果……伴って変わる二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察する力

伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述する問題の正答率は、全国の正答率48%を上回る60%でした。この問題は、果汁が含まれている飲み物について、果汁の量が2倍・3倍になると、それに伴って、飲み物の量も2倍・3倍になるという比例の関係を用いて、果汁の量が180mlのときの飲み物の量を求める問題です。これは、普段から日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解させるようにしたり、式だけでなく図や表などを用いて基準量と比較量の関係を表す学習を大切にしたりしてきた成果であると考えます。

●課題…図形の意味や性質を基に図形の構成の仕方を考察する力

示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す問題の正答率は36%(全国の正答率48%)でした。この問題は、コンピュータでプログラムを作り、いろいろな図形を描くというプログラミング機能を使ったものです。正方形のプログラムが例として書かれていて、それを基に正三角形を描くためのプログラムを作ったがうまく描けなかったはなこさん。その失敗例をもとにもう一度作ったプログラムを見直しています。正三角形を正しく描くには「5cmの直線を引く。」と「左に60°回転する。」のどちらの命令を直すとよいか、またそれをどのような命令に書き直すかという問題です。これは、四つの角の大きさが全て60°であることを基に、正三角形の一つの角の大きさである60°と180°の間にある数量的な関係を見いだすことができなかつたためであると考えます。

課題克服に向けて取り組んでいきたいこと

図形の作図の仕方を教え込むのではなく、辺の長さや角の大きさなどに着目して、図形の意味や性質を基に作図の仕方を考えたり、作図の仕方を筋道を立てて説明したりする作図の過程を大切に授業を進めていきます。また、全国学力・学習状況調査の問題は、国語科だけでなく、算数科や理科においても長い文章を読んで回答する問題が大半を占めていて、計算ドリルのような単純な計算問題(知識や技能を問う問題)はほとんどなく、思考力を問う問題ばかりです。今回の調査からも計算はできても、思考力を問う問題を苦手としている児童が全国的に多いことがわかりました。知識や技能とは異なり、思考力はすぐには身につかないので、思考力が身につくように授業の中で表現する機会を増やしたり、長文を読んで考えたり、目的に応じて複数の資料から必要なデータを収集したりする学習をするなど、継続した取り組みをしていきます。

〈国語〉

○成果……経験を基に考えたことを書く力

文章に対する意見を伝え合い、文章の良いところを見つけて書く問題の正答率は、全国の正答率37%を上回る47%でした。この問題は、島谷さんが書いた「六年生としてがんばりたいこと」という文章を友だちに読んでもらい、島谷さんと友だちと2人で感想や意見を伝え合っているという場面設定があります。そして、島谷さんが伝え合ったことをもとに自分の文章のよさを六十字以上、百字以内にまとめて書くとき、あなたが島谷さんなどのように書かかという問題です。これは、授業の中で書く活動をする際、友達と読み合ってよいところを伝え合ったり、アドバイスをしたりという活動をよく取り入れている成果だと考えられます。また、国語スキルタイムを使って「○字以上○字以内で書きましょう」のように条件をつけて書く習慣が身につけていたからだと考えます。

●課題……登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える力

物語「銀色の幻想」の登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える問題の正答率は正答率47%（全国の正答率68%）でした。この問題は、物語『銀色の幻想』の主人公のぼくが宇宙船を抱きしめた時の気持ちを選択肢から選ぶ問題です。これは、模型の宇宙船を抱きしめたときだけでなく、その行動に至るまでの主人公の行動や会話など複数の叙述を基に気持ちを捉えることができなかつたからだと考えます。

課題克服に向けて取り組んでいきたいこと

国語科の物語文の学習の中で登場人物の気持ちを会話からだけでなく行動や描写からも考える学習を意図的に取り入れていきます。さらに、複数の叙述を基に登場人物の気持ちを捉える学習をしていきます。また、国語科の学習だけでなく、全ての学習において「なぜそのような答えになると思ったのか」など、根拠を述べる活動を大切にしていきます。

〈理科〉 ※理科は3年に1度実施で、今年の実施の年でした。

○成果……昆虫の体のつくりなどの「知識」

昆虫のからだのつくりを理解しているかを問う問題の正答率は、全国の正答率73%を上回る91%でした。この問題は、ナナホシテントウが昆虫であることを説明するためにどの写真が必要かを選択するもので、昆虫の体のつくりの特徴を理解しておかないといけません。これは、実際に複数の種類の昆虫の体のつくりを比較しながら調べたり、差異点や共通点をもとに、成虫の頭・胸・腹といった共通した特徴に着目したりする学習を大切にしてきた成果だと考えます。

●課題……実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつ力

自分で発想した実験の方法と、追加された情報をもとに、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつ問題の正答率は、47%（全国の正答率68%）でした。この問題は、はね返した日光を水の入った缶に当てると、何色のかんの水の温度が最も高くなるかを確かめる実験をしたが、10分後はね返した日光が缶からずれていることに気づいたたかしさんが実験の方法を見直すという設定で、はね返した日光が缶に当たるようにするにはどうしたらよいかを考える問題です。これは、実験が失敗したとき、何がいけなかつたのか自分なりに考え、実験の方法を検討・改善するということができいていないためであると考えます。

課題克服に向けて取り組んでいきたいこと

今後は、理科の「仮説を立て、実験し、考察する」といった探求の流れを大切にしつつも、授業方法を今一度見直し、その途中で振り返ったり、考えや活動を修正したりしながら、試行錯誤して学習を行えるようにしていきます。コロナ禍で観察や実験が制限される中でも工夫し、子どもたちの探求心を大切にしていきたいです。

【保護者の皆様へのお願い】

今回の調査の結果から、予習や復習を行っている児童が少ないということがわかりました。習ったことを確実に身につけるためには、その日に学校で学習した内容を自主勉強ノートにまとめたり、テストで間違ったところをおさらいしたりといった復習をしっかりとすることが大切です。ご家庭でも声掛けをお願いします。